

SUMH News Letter

No. 46

灯火親しむべきの候、みなさま如何お過ごしでしょうか。今号ではクラウドファンディング目標達成に関する記事、カンボジアの SUMH 活動地視察の声、日本からの活動報告をお送りいたします。

目次

I クラウドファンディング目標達成

「ご支援を頂き、ありがとうございました」

SUMH 代表理事・青木 勉

「不都合な真実」とその遠さ

ビデオ作成ボランティア・青木光太郎

II 視察の声

「SUMH カンボジアを訪れて」

医療法人社団温故会 直方中央病院 三箇英司

III SUMH 活動報告

「多文化間精神医学会（宇都宮）で、シンポジウム“国際協力とメンタルヘルス”」

SUMH 理事 手林佳正

編集後記

宮本 圭

I クラウドファンディング目標達成

途上国を支えるネットワーク（SUMH）では、シェムリアップ州病院内精神科リハビリテーションセンターの活動・家庭訪問に加え、毎月 2 回、現地スタッフがレンタカーでアンコールチュム・クラランの保健区に出かけ、出張診療を行っています。しかし、まだまだ国内の多くの地域の住民が精神保健サービスにアクセスできていない状況があります。



外来診療を待つ人々

そこで、SUMH はより広い地域に精神保健サービス（診療）を届けるための車輛購入のプロジェクトに挑戦し、2016 年 10 月 20 日、皆様のご支援のおかげをもちまして目標を達成できました。

支援総額： 2,130,000 円

ご支援いただいた人数： 93 人

皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

「ご支援を頂き、ありがとうございました」

SUMH 代表 青木勉

この度は、カンボジアの農村に住む人々にこころのケアを届けます！」プロジェクトにご支援をいただき本当にありがとうございました。皆様のご支援により募金を達成することができました。

日本からはるかに離れたカンボジアに住む人々のこころのケアのために、お力をいただけたことにこころより感謝申し上げます。このキャンペーンを機に、開発途上国に住む人々と私たちが、お互いにこころを大切にする社会に一步でも近づくことができれば幸いです。このご縁を大切にしていきたいと存じます。これからも活動のご支援をよろしく願いいたします

「不都合な真実」とその遠さ

ビデオ作成 青木光太郎

東京に越してきて 3 ヶ月になる。住み、働き、日々の生活は忙しく過ぎ。中心に仕事、友人があり、イ

ベントや旅行といった非日常があるが、繰り返されるパターンは基本的に同じなのだ。朝の通勤電車、オフィスのデスク、周囲1キロほどのレストラン圏。「あれ？」と首を捻る不可解さは縁のないものになっていく。一昔前にアル・ゴアという人が「不都合な真実」なる環境問題の本を書いたが、この生活からは「不都合な真実」が都合よく片付けられている。

2016年7月下旬に、友人とカンボジアに向かった。成田空港で待ち合わせた僕たちは長期休み終盤にありがちな緩い空気に包まれていた。アメリカの大学を卒業した僕たちが仕事を始める前の最後の長い休み。今日が週の何曜日か月の何日かを思い出せない、学生時代に特有の時間の只中に、カンボジアという目的地がただ漂っていた。友人がバッグに詰め込んだ蚊よけグッズの数々を眺めながら、昔、四六時中身に付けていた長袖のシャツの蒸し暑さを思い出した。

以前に二度カンボジアを訪れていた。両親に連れられての家族旅行であった。一回目は一〇歳、二回目は高校卒業後だったと思う。そして、これは家族旅行の常であろうが、昔の旅行の記憶が僕にはあまり残っていなかった。欠片の風景の連続や旅程は頭の隅にあるが、それぞれに自分がどのように感じたのか、はっきりと思い出せない。一五年続く両親の活動に関わらず、カンボジアは年齢を重ねると共に忘れられ、僕にとって少し遠い場所であり続けた。

クラウドファンディングの寄付を集めるためのビデオ作り、というのが今夏の訪問の目的だった。三度目となるカンボジアを訪れることにした僕は、ある期待を持って計画を立てていた。友人と共にビデオを作り、プロジェクトを進める楽しみは勿論だが、クラウドファンディング活動を通して自分とカンボジアの距離が少しは縮まれば、と思った。「近くていいはずなのに遠いのはなぜだろう？」両親の活動を横目に眺めながら、自分の中に浮かび上がってくる疑問なのだった。

市内から一〇分も走れば、田んぼが見える。牛の身体にたかる蠅と蠅を叩く尻尾との闘いには、長く続く繰り返しを厭わない時間があつた。クララーンの出張診療所を訪れる患者さんたちにも同じものがある。月二回の出張診療時には一〇〇人を超える患者さんが訪れ、早朝から昼下がりまで彼ら彼女らは辛抱強く自分の名を呼ばれるのを待つ。しかし、タッチパネルの携帯に張り付いてる人はもちろん、待合スペースにあるテレビに関心を払う患者さんや家族もいない。ぼんやりと壁にもたれて空間を見つめる人、数人でグループになって楽しそうに話し込む

人。数時間に及ぶ待ち時間の過ごし方はそれぞれだが、共通しているのは無理に埋められなくてもよい、既に満ちた時間があつた。

訪問診療では患者さん自身が話せず、家族から話を聞くのが主だった。両親や兄弟は患者さんの経緯を語り、カメラレンズに様々な感情を見せた。短くて過去数年、長い場合には一〇数年、時間の長さに堪えられる人たちだからといって、患者さんの精神疾患との歩みが重くないわけはなかった。それでも今日までこうして共に住んで共に働いてきた。こう言う家族の人々の目には光があつた。

最終日の友人の体調不良を除き、ビデオ撮影は特に大きなトラブルに見舞われることなく進んだ。現地代表のピサルとヴァナック、患者さんたちは僕たち二人を暖かく迎え、インタビューに快く応じてくれた。出張診療所、患者さんの自宅、州病院の外來。砂埃舞うカンボジアを走り回るうちに決められた五日は過ぎていった。

カンボジアから帰ってきて、ずいぶん世の中はおかしな方向に進んできたのだなと僕は思った（経済が段階を踏んで発展していて、カンボジアのような国が日本やアメリカのように変化するという前提あつての話だが）。東京で働き始めてから一層この確信が強まった。今の世代に始まったことではないが、この世界ではますます時間がなくなっている。時間がない世の中では、仕事や生活圏内で目に入らないことに人は怠惰、無関心となる。市場のグローバル化が進み、情報は世界中から入るのに逆行して、個人の関わる世界は狭く、限られたものになっていく。

僕のような一会社勤め人にとって、カンボジアは本当にただの遠い場所で、この距離は何もしなければ遠くなっていくのみだろう。遠くなっていくのはカンボジアだけではない。僕たちが撮影した患者さんのように苦しんでいる人は、日本の東京のなかに数え切れないほどいる。しかし、時間のない僕たちに彼ら彼女らの姿は見えない。こうして都合の悪いものがどんどん目に見えなくなり、都合の良いものだけが残っていく。

僕は不都合な真実に比較的近い環境で育った。社会に出て自分の生活を始め、この距離は遠くなるのみだと知った。これからも時間が足りない状況は僕たちの生活を根本的に規定していくだろう。偶然ある真実へと近い距離を与えられた自分は、ここからできるだけ離れないようにするべきなのだ。そのためにできることは、生活の外を見る、不都合な真実との距離を近く保つこと。クラウドファンディング

のような試みは一つの指針を示している。どれだけ時間がなくとも、金銭による援助や情報の拡散という形で生活の外のものと自分を繋げてくれる。こうして不都合な真実と向き合おうという人たちが増えていく。僕も、ややすれば遠くなる距離を少しでも近づけるため、限られた生活からやれることをやっていきたい。

このクラウドファンディングには本当に多くの応援者の方が集まりました。大学の先輩から親戚、両親の仕事先や他での繋がり、ウェブサイトから募金していただいた人たち、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



十四年前の筆者（右）、アンコール・ワットにて

Ⅱ 視察の声

「SUMH カンボジアを訪れて」
医療法人社団温故会 直方中村病院
精神保健福祉士 三箇栄司

このたび青木理事長および事務局の篠原様のご尽力を賜り、SUMH カンボジア拠点に訪問させていただきました。

シェムリアップ空港に降り立ち、キリングフィールド、地雷博物館を見学後、シェムリアップ州病院を訪問。我々が到着するとピサル代表が直々に玄関先まで出迎えてくれた。

院内にある SUMH メンタルヘルス・リハビリテーションセンターに案内されると、掲示板には SUMH の活動がひと目でわかる写真が掲示されていた。

「Home Visit」のカテゴリーに貼ってある写真には、民家にて鎖に繋がれた若い男性の写真があった。着衣はトランクスパンツのみで上半身は裸である。ピサル代表の説明によると 3 年前の Home Visit にて介入した患者とのことで、歴史紹介でしか見るこ

とのない、鎖で拘束された写像に、数十年タイムスリップしたかの錯覚に陥りつつも、胸が締め付けられるおもいであった。

通路を渡ると、広さ 30 畳ほどであろうか、緑、青、赤のゴザのようなカーペットが敷かれている部屋に案内された。そこは様々な活動を行うメインルームとのことであった。一同は円状になって座り、ピサル代表とヴァナック氏より SUMH の活動を紹介していただいた。センター内での活動では、心理教育、生活サポート、就労支援、作業療法、個別カウンセリングなどが行われている。



ミーティングの様子

1 ヶ月に 2 回の割合でアンコールチュムやクラランの病院へ医師と共に出向き、巡回診療を行っているとのことであった。田舎においては、いまだに占いや僧侶によるアプローチが主導権を握ることも多いのだそう。また Key Person Meeting と呼ばれる、村長や教育者などへの精神科医療福祉に対する理解促進の活動を行う。これは最も重要なプログラムであるとピサル代表は言う。

掲示写真の鎖で拘束されていた男性は、Key Person Meeting を通じて発見されたとのことであり、ピサル代表のスマートフォンには、最近のその男性の写真が収められていた。その出立ちはスラックスにカッターシャツで、ビジネスマンさながらの男性に変容していたのには驚いた。その変容ぶりに、彼らの活動の意義の深さ、またそれを支える SUMH の存在の重要性を痛感した一瞬でもあった。

終盤では会のメンバーから様々な質問もあり、その 1 つ 1 つを丁寧に答えていただいた。1 時間という短い時間のため、我々は彼らの活動のごく一部しか把握できなかったのは言うまでもないが、カンボジアの実情に触れられたことは実に意義深い。

内戦、虐殺といった艱難辛苦を味わったカンボジアの方々。そして、その現状に同苦し、精神保健という分野で、真の自立をサポートする SUMH の思想と行動に心より敬意を評したい。

最後に、このような貴重な体験を後押ししてくだ

さった青木理事長、篠原様、そして満面の笑顔と真剣な眼差しで説明くださったピサル代表、ヴァナック氏に、この場を借りて、心より感謝申し上げます。



SUMH リハビリテーションセンター入口にて

III SUMH 活動報告—国内編—

「多文化間精神医学会（宇都宮）で、
シンポジウム「国際協力とメンタルヘルス」
SUMH 理事 手林佳正

2016 年 10 月 2 日、当 SUMH からは手林佳正が「カンボジア地域精神保健支援の 20 年 - 鎖とロジャース -」と題して、カンボジア精神保健の特徴、伝統治療、SUMH の 1996 年からの支援経過、鎖拘束から訪問し、治療を開始して鎖を外すことができた事例、精神科巡回診療を含む現在の支援、Alma Ata 宣言を MH 分野にも、ロジャーリアンの対人支援技法は通文的に有効などが内容の報告をした。他の 3 人のシンポジストは、パレスチナでの子どもたちによる映像づくり、ペルーでの内戦後の精神保健活動、中国やタンザニアなどでの HIV/AIDS 活動と話されていた。相互にはあまりかみ合わなかったが会場の方に“こんなことをやっている人たちもいるんだよ”ということは伝えられたようだ。

この学会には当 NGO からの参加者が少なくないので、この月の拡大理事会が会場の一部を利用して行われたことも付け加えます。

編集後記



久しぶりにニュースレターの編集を担当。ちょっと勘を取り戻す？までに時間がかかってしまい、今号はコンパクトなものになりました。次の 47 号ではク

ラウドファンディングによる車輛購入のご報告、
2016 年 12 月開催のスタディ・ツアーのご報告、そして、活動地カンボジアからの生の情報・声などお届けしたいと思います。ご期待ください。

編集担当 宮本 圭

**SUMH の会員として、また寄付金によって
一緒に途上国の精神保健を支えてください。**

2015 年 7 月から患者さんの診察 1 回あたり 1 ドル（現地通貨で約 4,000 リエル）の診療費を現地法人の収入として得るようになり、数か月が経過します。

いましばらくは現地の地域精神保健活動を継続するため、日本からの支援が必要です。カンボジアの患者さんの笑顔を思い浮かべ、当法人にご寄付いただけると、大変有難く存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

【年会費】一般 10,000 円 賛助・学生 5,000 円

【会費・寄付金の振込先】

銀行振り込みの場合

銀行名：楽天銀行 第二営業支店(支店番号 252)
口座名：特定非営利活動法人 途上国の精神保健を支えるネットワーク
口座番号：普通 7385345

郵便振替の場合

加入者名：途上国の精神保健を支えるネットワーク
口座番号：00170-2-535294

郵便振替は振替用紙に、住所・氏名・Tel & Fax・E-mail・会費と寄付金のいずれか・SUMH へ一言を明記の上、お振り込み下さい。

SUMH 日本事務局

〒130-0013 東京都墨田区錦糸 3-5-1
錦糸町北口ビル
TEL 03-3812-0736
HP: <http://www.sumh.org>
Mail: info@sumh.org

SUMH Cambodia

Mental Health Rehabilitation Center,
in Siem Reap Provincial Hospital,
Mundol Moi, Siem Reap, Cambodia
Postal Address:
P.O.Box 93102 GPO Siem Reap Angkor, Cambodia